

テーマ①

かのや100チャレ本選

# かのやに新規就農者を集める

京華中学校3年

KANOYAのために

林聖真 山口功 井上大知 柳澤秀翔

今回私たちは、

鹿屋市の現状を踏まえ、

1.多額の資金を必要とせず

2.大きな現状変更も必要としない

ような取り組みを提案したいと思う。

今回私たちが提案する取り組みは

**“新規就農者”を**

---


**鹿屋市に呼び込む**

---

というものです。

# コンセプト

★鹿屋市が主体となり、『新規就農希望者応援キャンペーン』と称し、新規就農者が“住まい”、“農地”、“農作業用具”を一括して、かつ通常よりも**安い価格**で入手できるようにする。



農業を始めるときの負担を減らすことで、新規就農希望者に「是非かのやで農業を始めた!!!」と思われるようなまちにし、10代～30代の新規就農希望者を呼び込む。

しかし、

“新規就農者の住まい”や“農地”、  
“農作業用具”を一括して、かつ  
通常よりも安い価格で提供する  
のは非常に難しい。

# そこで注目したいのが…

---

鹿屋市に多くある

**★空き家**

**★耕作放棄地**

と

農業をリタイアした人の

**★中古農作業用具**

である

はじめに

空き家

について

# 鹿屋市の空き家の数

(令和3年時点)

利活用可能なもの	：	673件
<u>利活用不可なもの</u>	：	<u>1506件</u>
合計	：	2179件

出典元：第2次鹿屋市空家等対策計画(令和4年3月鹿屋市)P.11下

これらの空き家は新規就農者の住まいとして活用が可能であると考えられる。



次に

# 耕作放棄地

について

# 鹿屋市の耕作放棄地数を見てみると…

## 耕作放棄地の推移

地区	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)	筆数(筆)	面積(ha)
鹿屋地区	3,926	438	4,369	459	5,724	615	7,095	750
輝北地区	1,001	156	1,036	146	950	136	1,151	165
串良地区	1,333	156	1,190	137	993	110	936	103
吾平地区	954	92	886	82	855	87	975	99
合計	7,214	842	7,481	824	8,522	948	10,157	1,117

資料:鹿屋市農業委員会

出典元:鹿屋市の農業(平成28年1月鹿屋市農林水産課)P.6下

これらの耕作放棄地は新規就農者用の農地として活用が可能であると考えられる。

最後に

中古農作業用具

について

## 農家戸数の推移

単位：戸

年次	総数(戸)	自給的農家	販売農家数(戸)	兼業農家		
				専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
平成2年	9,002	2,086	6,916	2,948	1,658	2,310
平成7年①	7,597	1,941	5,656	2,351	1,024	2,281
平成12年	6,760	1,996	4,764	2,262	779	1,723
平成17年	6,059	2,106	3,953	2,245	629	1,079
平成22年	5,318	2,029	3,289	2,125	353	811
平成27年②	4,115	1,696	2,419	1,628	259	532
比較②－①	△3,482	△245	△3,237	△723	△765	△1,749

資料：鹿児島農林水産統計年報

出典元：鹿屋市の農業(平成28年1月鹿屋市農林水産課)P.5上

1年間に 平均約187.9戸

1年間に平均約187.9戸のリタイアした農家さんから中古農作業用具を譲り受けることができれば、新規就農者用の農作業用具として活用が可能であると考えられる。

かのやで

新規就農をするのに

適している作物は何か？

新規就農者が好きなものをストレスなく作るのが一番いいと思うので、別に、作物について言う必要はないと思うが、今回は例として提示する

新規就農時には、

将来のことも含めて考えると、

収入の安定・増加が一番大切だと思う。



常に一定の需要があり、  
かつ収益性の高いものが  
最善だと考える。



かのやでそれに適する作物は…

いくつかありますが

今回、提案するのは…

施設栽培のミニトマトです

なぜなら…

最も 農業粗利益が  
高い作物である。

その理由は…

温度管理が可能な

ビニールハウスで育てるため

天候による不作がないから。

ミニトマトの労働時間は1,488時間と、  
最も高いシシトウの2,983時間や、  
イチゴの2,092時間に比べると、  
かなり少ない時間に抑えられる。

需要を供給が超えてしまった場合も 加工して トマトケチャップなどにして売れることで、廃棄することをなくせ、“SDGs”にもつながる。さらには、加  
工産業への広がりも期待できる。

ご清聴

ありがとうございました